

開催日時：2002年9月12日（木） 13：30～17：00

場 所：ぱ・る・るプラザ京都6階 会議室C

参加者数：委員 15 名、河川管理者 19 名、一般傍聴者 168 名

## 1 決定事項

今後の進め方について

- ・最終提言は「河川整備のあり方に関する提言」と「住民意見聴取についての提言」を統合させ、最終提言作業部会が主体となって作成する。10月24日に当初予定していた第15回委員会を中止し、11月13日に委員会および部会委員全員でとりまとめ案を検討する「拡大委員会」を開催する。
- ・12月5日の第15回委員会で最終提言を確定させる。  
委員会ワーキンググループ（WG）について
- ・水位管理WGと水需要管理WGに加えて設立されたダムWGと一般意見聴取WGのメンバーが決定した。また前回委員会での規約改正に従い、WG専任である小尻委員の委嘱状を出して頂くよう近畿地方整備局に委員会より要請した。
- ・新たに水質WGを設立することが決定した。
- ・必要に応じてWGメンバーがヒアリング等の出張を行うことが委員会として承認された。

## 2 審議の概要

最終提言に関する意見交換

- ・資料2-1「最終提言のとりまとめ方針（案）」2-2「最終提言目次案」をもとに、庶務から最終提言に関する説明があり、意見交換が行われた。最終提言は委員会中間とりまとめを基本に、各部会の中間とりまとめおよび各WGからの提案、一般からの意見等を盛り込み、委員会として1本化したものを出すことが確認された。「各部会で十分に情報共有と検証を行い、11月13日の拡大委員会での議論に備えるべき」等の意見が出された。

主要論点に関する意見交換

- ・水質、治水、水位管理、水需要管理の4つの論点について意見交換が行われた。
- ・水質については、琵琶湖・淀川水質保全機構殿から資料3-1-1「琵琶湖・淀川水系の水質保全について」をもとに説明頂いた。内容は水質保全問題の基本認識から、100年にわたる琵琶湖の水質問題の変遷、今後の水質保全対策の方向性など。
- ・水位管理と水需要管理は、各WGリーダーからWGの議論内容について説明があった。
- ・治水については「浸水被害の軽減について目標が必要では」との問題提起と意見交換が行われた。

流域委員会の進め方についての要望

「最終提言作業部会の経過を全委員に知らせてほしい」「水需要管理を考えるには国土交通省だけでなく、農林水産省の話も聞きたい」といった要望が出された。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者1名から、「中間とりまとめへの一般意見について、どう扱われるのかなど、プロセスを明示してほしい」との発言がなされた。

このお知らせは委員の皆様にご覧の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。